



新人看護師基礎研修「一泊入院患者体験を通して学んだこと」

4階東病棟 古川

私はこれまで入院の経験がなく、初めて入院を体験しました。フィラデルフィア頸部カラーと弾性ストッキングを装着して過ごしました。フィラデルフィアは首がむれて気持ち悪くなりましたが、先輩看護師に「首むれない？タオル持ってきてみましょうか」と声をかけてもらい、その声かけがすごく有難いと思いました。私はこの体験を通して、患者さんが気になっていることがないか声をかけて、思いの表出や、困っている事、望んでいる事など、患者のニーズに合わせた看護を提供したいと思いました。



4階東病棟 土川

私は一度も入院をしたことがありませんでした。患者体験を通し、患者さんの気持ちに気づくことができました。病室環境でのことです。夜間の点滴アラームの音や廊下の足音などが気になり、何度も目を覚ましました。また、病室内は静かで同室者にも気を遣いながら過ごしていることに気づくことができました。入院の説明については、専門用語は使わず、分かりやすく説明され、今後は患者さんに分かりやすい言葉で説明できるようにしたいと思いました。



4階西病棟 久保

今回患者1泊入院体験研修に参加し様々な気づきを得ることが出来ました。一番学ぶ事が出来た事は、ナースコールを押してトイレへ誘導して頂く時の申し訳なさと、恥ずかしさでした。普段「トイレの時はいつでも呼んでくださいね。」と、声かけをしていたのに、いざ自分が患者側になると、恥ずかしさと申し訳なさでナースコールを押すことが出来ず我慢をしてしまいました。患者さんも同様な気持ちだと考えると少しでも羞恥心や申し訳なさを軽減できるように1つ1つ考え、そして患者さんの声に耳を傾け、発される言葉の裏もきちんと読み取れるよう接していきたいと思えます。



4階西病棟 松元

これまで入院の経験はしたことがなく、緊張しながらの患者体験でした。一番緊張したのは、ナースコールを押すことです。忙しい中で迷惑にならないか、すぐに来てもらえるだろうかと思い、1時間悩みました。入院した患者さんは様々な苦痛があり、ナースコールを鳴らすので、対応は早くしていきたいと思いました。また、静かな環境では少しの物音も気になることが分かりました。

体験を通し、業務中の行動や対応を振り返る事が出来ました。患者さんが安全安楽に過ごせるように、今回の学びを活かしていきたいと思えます。



3年目ローテーション最後、今の心境について

手術室 宮内

入職して2年3カ月が経ち、1年目は3東、2年目は4東、3年目となり手術室に異動となりました。1年毎のローテーションは、病棟の特徴や業務の流れを覚える事に精一杯で、正直やりがいや達成感を得るに至らず、自分の行っていることはすべて業務で、「看護はなかった」と反省する毎日でした。手術室も新しく覚えるが多く、毎日戸惑いますが、知識豊富な先輩方に支えられ、安心して仕事ができています。もちろん第一に優先すべきは患者さんですが、毎日私を見守り支えて下さる先輩に貢献すべく、日々自己研鑽していきたいと思えます。

4階西病棟 松山

学校を卒業し入職してから3年目となりました。1年目は看護業務や看護手順が分からず迷惑をかけることが多かったですが、先輩Nsに指導をもらい学ぶことが出来ました。2・3年目は病棟が変わり、病棟特有の疾患や検査を学ぶ機会になりました。また、複数患者の受け持ちで多重課題が生じ、慌ただしく過ごす事が多く、治療や検査の学習が追い付かず反省しました。今でも分からない事はその都度学習し、確認をしてもらってから行います。今後はタイムスケジュールの見直しや変更が出来るよう頑張っていきたいと思えます。

4階西病棟 早瀬

入職して3年目になりました。1年ごとに異動し3病棟で経験をさせていただきました。1年目の頃は右も左も分からない状態で一から指導をしてもらいながらでした。2・3年目は業務の流れは把握しているが、診療科での疾患や処置等について、理解が不足し不安な日々でしたが、先輩方の優しくいい対応に少しずつ環境にも慣れることができて、知識や技術を学ぶことができました。これからは初心を忘れず日々学びを深め、質の高い看護を提供できるように頑張りたいです。



上の写真は3年目必須課題の在宅・施設見学研修の説明会の様子です。
7/1には事前学習の報告会も終了。
今後は入院された患者の退院指導を行い、在宅見学をして報告会にて終了となります。
頑張ってくださいね。（教育委員より）



HCU 急変時対応シミュレーション

HCU副師長 皮籠石

今年度HCUでは急変時対応について力をいれており、4月に心臓マッサージ、除細動器、挿管介助の準備から実施までを行いました。シミュレーターを使い数値化して効果的に行うことができました。今後はシミュレーションでの実施を全員行い、さらに急変時対応がスムーズに行えるよう、スタッフ教育を行っていききたいと思います。



院外研修

応急手当普及員講習会を受講して

外来 奥

今回、当院スタッフへ心肺蘇生についての講習を行う立場になるにあたって、改めて基礎知識の復習・心肺蘇生とAEDの実技の復習と模擬講習を行いました。救急外来では最近、自動心臓マッサージを使用する事が多いため、実際に心臓マッサージをする事が少なくなりました。その為、十分な強さと十分な速さで心肺蘇生を行う技術を改めて身体で覚える事が出来ました。模擬講習時は焦りから説明が早口になり、時間配分などを考えながら分かりやすく説明する事が大事だと学びました。皆が確実に必要な知識を覚えて貰えるように、また確実な1次救命処置が出来るよう講習のサポートをしたいと思えます。

手術室 藤井

今回の研修を通して応急手当の方法を習得することができ、救命の連鎖の内容理解したことで、バイスタンダーの重要性を理解することができました。2日目からは、講師側として発表を行い、「伝えたいことがたくさんある中で、自分はどこをしっかりと伝えたいのか明確にしておくこと」が自分に不足している部分であると分かりました。3日間のグループワークを通して多職種との関わりを持つことができ、チームワークで講習を乗り切ることが出来ました。今後普及員として指導していく中で、伝えたいことが伝わる講習が実施できるよう、フィードバックを行い、部署内でのデモの実施、病院内の普及員と情報共有を行いながら活動していきたいと思えます。



看護補助者研修「看護補助者の役割・医療制度」について

回復期リハビリテーション病棟 阿保

看護補助者とは、「看護師の指導のもと看護チームの一員として、看護の専門的判断を要しない看護補助業務を行う者とする。」

業務を遂行するにあたって気を付けている事、皆に共通したことは、①情報を共有する（補助者同士・看護師などを含め）②判断が難しい時は相談することでした。

グループワークでは、5人で声を出さないなどいくつかの条件がある中、条件を守ることは出来ませんでした。協力し一つの事（課題）を達成することができました。

研修を受講し、チームでさまざまな事に取り組み、達成していく事が大切です。チームの一員として看護補助者がいるという事を改めて理解し、チームの力に少しでもなれたらと思いました。



マイブーム

私は、メダカを飼っています。きっかけは、2年前にホテイアオイという水草を育て始めたらボウフラがわいた事でした。残念ながら、水草は早々に枯れてしまいましたが、メダカたちは元気です。メダカの寿命は2～3年と言われています。温かくなると、毎日卵を産むようになります。生まれた卵は、親に食べられてしまうので別容器で飼育をします。1～2週間もすると、針子と呼ばれる稚魚が誕生します。初めの頃は、小学生の子供たちの自由研究になればいいなと思っていましたが、今では、私の毎日の楽しみになっています。メダカ5匹でスタートしたのですが、去年の夏の終わりには数えきれないくらいに増えていました。今年も、産卵が始まっています。毎日、水槽を見るのが楽しみな私です。

3階東病棟 上城



編集後記

熱中症やコロナも増加しており、心配する日々ですが、負けずに頑張っていきましょう。研修も感染対策。マスク・ゴーグル忘れずに。

(皮籠石)

